

ミャンマーから先進医療視察

脳外科医2人、名大などへ 「丁寧な診察に感動」



脳ドック受診者のCT画像診断を見学する(手前右から)トウ教授とルウィン教授＝ジャパン藤脳クリニックで

開発途上国の医療支援をしているNPO法人「国際医療連携ネットワーク」(事務局・名古屋市昭和区)の招待で、ミャンマーの脳外科医2人が来日し、名古屋大や藤田保健衛生大など県内の医療機関で、先進医療の現場を視察している。来日したのは、ヤンゴン

総合病院のミヤト・トウ教授(47)とマンダレー総合病院のキン・マウン・ルウィン教授(51)。15日に来日し、脳外科を中心に視察し、仙台市で21、22日に開催される日本脳ドック学会総会に出席する予定。2人は、17日には名古屋市緑区の「ジャパン藤脳ク

リニック」を訪れ、コンピュータ断層撮影法(CT)などによる画像をパソコンで患者に示しながら行う医師の診察に同席。ミャンマー脳神経外科学会会長を務めるトウ教授は、「日本の

医療機器はとても質が高い」と感心した様子で話し、ルウィン教授は「細かく丁寧に説明する診察に感動した」と語った。同ネットワークの神野哲夫理事長は、「医療機器を寄贈するだけでなく、ミャンマーの医師と連携して現地の医療の向上に協力したい」と話していた。